

# 学校だより



令和3年11月30日  
横浜市立二谷小学校  
校長 矢島 孝幸

## “頑張る姿”は、うつくしい！！

副校長 西 かおり

「副校長先生、今日は足がすっごい痛い。」「練習のときは、いつも3位だったけど1位になれた！」運動会の翌日、子どもたちが話しかけてくれたときの言葉です。みんなそれぞれ力を出し切ったからこそその言葉です。1年生は、小学校で初めての運動会。おうちの人の前で精いっぱい50M 駆け抜けました。2年生は、自分で作ったサンバイザーやリストバンドを誇らしげに身に着け、堂々と踊りました。3年生は、「This Is Me」を体現し、力強く自分らしさを表現しました。4年生は、学年全員でテーマを表現していました。また、3年生のダンスの音楽が途切れて中断したときに、力いっぱい拍手をして応援しました。5年生は、日頃から学習の軸となっている多様性を表すかのごとく、いろいろなジャンル、リズムに合わせて体全体を使って踊りました。そして、6年生。準備の段階から各自の役割をもち、最後までやり抜きました。一生懸命にソーラン節を踊る姿からは、最上級生らしさと熱量を感じました。やはり、全校で取り組む行事の中で頼りになり、学校を支えてくれるのは6年生だと実感させてくれました。

日々の学校生活でも子どもたちは、いろいろなことに取り組み頑張っていますが、行事になるとその姿を異学年間で見合い感じ合うことができる。また、来年はこんな風に頑張ろうと目標をもつことができる。それが成長につながるのだと思います。職員室の窓から練習の様子や本番の姿を見ながらそのようなことを考えました。そして、改めて「頑張るって素敵なことだな。」と思いました。ふたつやっ子の頑張りに対して職員室にいるわたしにできることは、応援することと価値づけてあげることだと思うので、先日出会った詩になぞらえて声を大にして言いたいです。「頑張るふたつやっ子の姿は、うつくしい！！」と。

世界はうつくしいと

長田 弘

うつくしいもののお話をしよう。  
いつからだろう。

ふと気がつく、うつくしいということばを  
ためらわず口にするのを、誰もしなくなった。  
そうしてわたしたちの会話は貧しくなった。  
うつくしいものをうつくしいと言おう。

風の匂いはうつくしいと。

溪谷の石を伝わってゆく流れはうつくしいと。  
午後の草に落ちていた雲の影はうつくしいと。  
遠くの低い山並みの静けさはうつくしいと。

きらめく川辺の光はうつくしいと。

大きな樹のある街の通りはうつくしいと。

行き交いの、なにげない挨拶はうつくしいと。

(中略)

過ぎてゆく季節はうつくしいと。

さらにと老いてゆく人の姿はうつくしいと。

一体、ニュースとよばれる日々の破片が、

わたしたちの歴史と言おうようなものだろうか。

あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。

うつくしいものをうつくしいと言おう。

幼い猫とあそぶ一刻はうつくしいと。